
弱者は努力する。

素浪人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

弱者は努力する。

【Nコード】

N3862Z

【作者名】

素浪人

【あらすじ】

織斑一夏が世界初のISを動かした男として注目を受ける中、日本はもしかしたらまだ居るかもしれないという期待を込めて男性に対してIS適正を調べる検査を行った。

そして浮上するさらに二人の男性。

一人は才能の塊。

もう一人は……。

プロローグ

神様のミスにより転生。

二次創作の話では良くある話だ。

何故なら簡単に物語の世界にイレギュラーを入れられるからだ。

しかし、この理由はありえるのだろうか？

神様がミスを犯す。普通なら考えられない理由だ。

だが、所詮は創作話の話だ。それくらい許されてもいいだろう。

話を今に戻そう。

俺は今、真っ暗な空間にいる。

伸ばす手の先も見えないほどの黒・黒・黒。

ここまで来ると闇という言葉がぴったりだろう。

その世界にぼんやりと眼鏡を掛けた中学生っぽい女の子が現れた。

「ご、ごめんなさい。か、神様ッたら間違えてあなたを殺してしま
ったみたいで」

人を間違えて、ね。ほんとかな？ わざとじゃないの？

「う、こそ、そんな事無いですよ。ほんと神様ッたらうつかりやさ
んで……」

……もうその話はいいや。

それで？

用件はなんだ？

「え？　は、はい。そのですね。申し訳ないんですが、あなたにはお詫びとして物語の世界に転生してもらおうかなと思ってまして」

……………そうか。

「………そうですね。転生していただくのは『IS　インフィニット・ストラトス』の世界となります

あなたは主人公と同年代で、まったく関係の無い所に住む事にはなりますが、物語が始まった途端に主人公たちに召集を受ける事になってますのでご了承下さい」

分かった。

「あ、特典の方ですが、要望は聞きますよ？　何がよろしいですか？」

……………それよりも一つ、聞きたい事があるんだけど。

「あ、はい。为什么呢ようか？」

……………これから俺が行くその世界って、他の転生者は居るのか？

「えーっと……………、はい。いますね。一人同じ理由でなくなった方がいらっしやったので、既に転生済みです。ちなみにもう転生させる予定は無いので、実質この世界のイレギュラーはあなたたち二人だけです」

……………分かった。

「それで、特典はどうしますか？ 内容によっては2，3聞きますよ？」

転生者の能力を破壊する力が欲しい。
それと良かったら強力な催眠術を教えて欲しい。

「催眠術のほうは軽いのですが、転生者の能力を破壊する力ですか？ これは結構容量食ってしまいますねこのままだとこれは渡せないかもしれません」

だったら、既存の力を削ってくれ。

……そうだな。IS適正を削ってくれ。それとそれ以外の身体能力とか、どうせ過剰に供給してるだろうから普通レベルまで落としてくれ。

「なるほど、それなら大丈夫です。転生者の能力を破壊する力ですが、完全にオリジナルなので新たに創造しないといけないんですが、どういった風に使いますか？」

……フィールドタイプで行く。
自分自身を常にそのフィールドで包んでいて、触れるだけで転生者の能力が破壊されるような物だ。

「なるほど、了解です。相手はたった一人ですが用心深いのですね」
……まあ……な。

「はい、では頑張ってきてください」

女の子の姿が闇の中に消え、そして意識を失った。

俺が貰った能力は転生者の能力破壊。

これはフィールドタイプで完全オート。知らずに転生者と接触でもしたら相手の能力は今生では使えなくなるだろう。これで身を守る。この力はこれからの『俺』のための大事な力だ。

『俺』はきつと様々な困難に巻き込まれるだろう。その最たるものがもう一人の転生者だということは簡単に予想が付いた。

だからこそ自分の力を削ぎ落としてまで手に入れた能力だ。これならきつと身を守れるだろう。

もう一つ。これは催眠術の知識。

能力としなかったのは、これ以上余計な力はいらなかったからだ。

正直に言おう。俺は転生を望んでいない。

俺の今生はいわば玩具だ。

神だとかそんなような生き物？の操り人形としての生で、幾ら意識しないようにしてもその知識がある限り俺は奴らに縛られ続けるだろう、おれはそんな人生望んでいない。俺としての人生は前の世界での生活だけだったんだ。こんな誰かの操り人形になるくらいなら。

こんな人生はいらない。

俺は今、赤ちゃんになっている。

母親らしき女性がこちらに向かって涙を流しながら喜んでいる姿を見て。俺はこう思う。

「今、あなたに素敵なプレゼントを贈ります」

俺は催眠術の知識にある自己暗示を行うため、自らの視界に自分の握りこぶしを入れる。

——それではさようなら。

そして俺は自らの記憶を全て消した。

プロローグ（後書き）

能力ってのは物にもよるけど強力なものは本当に協力だからね。
だからどんな能力ではとりあえず破壊しとくという。
転生者殺しの力となっています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3862z/>

弱者は努力する。

2011年12月13日00時55分発行